

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牛島委員	生涯学習を中心に話を進めることで、マナビティーセンターとびほーるについて協議していきたいと思います。
荒井主幹	<p>社会教育参加者調べに記載している事業について、内容等を説明 生涯学習推進体制の整備という施策の検証ですが、社会教育だけでは解決できるものではなく、産業や消費者、子育てなど、部局横断的な指針を一層深めていく必要があります。</p> <p>公共施設の空き情報のシステム化では、町にはホームページがありますが、如何せんマナビティーセンターはアナログで、サークルなどは曜日で固定化していて情報システム化はしていない。もう少し利用のしやすい方法や空き状況などの情報を提供できるシステムがあってもよいのではないかと思っている。</p> <p>教育資源リストという冊子を作成しているが、個人情報が多く盛り込まれており、使いやすくデータ化したものを教育現場に配布し活用していただくこととしている。</p> <p>地域活動への参加奨励と機会の充実ですが、参加者の固定化や高齢化が課題となっている。施設の利用を促進するだけでなく活動に対する支援の継続が必要と考えている。サークル利用団体に登録しないで活動しているところもあるので、そうした活動する方の発掘も必要かと思う。</p> <p>陶芸釜の熱線交換とあるが、大事に使っていただいております。取替の時期が少し先送りしている。木工室の機材も大事に使ってもらっている。</p> <p>町民会館の利活用ですが、びほーるの利用促進について、物的・人的条件をより充実して満足いく舞台運営に努めている。</p> <p>コミュニティスクールについて、校区の保護者や地域の方を交えて、活動していただいている。人材の固定化・高齢化がこちらにおいても課題。</p> <p>サークル活動の主体的な活動に継続的な支援をしていくこととしている。</p>
牛島委員	まちづくり白書では教室・講座というところの評価が低いがどういったことか。
野村主査	教室・講座を実施しているが、マナビティーセンターでやっているということが、周知はしているがあまり知られていないのかと思う。
牛島委員	事業のPRはしているということだが、PR方法も何か工夫や見直しが必要なのかと思うが、一所懸命していると思うが関心が低いのか。
伊藤委員	教育講演会が前年は237名となっているが、今年は68名と少ないのはどうしてか。
野村主査	前年度は、PTAの中部地区の母親研修会と抱き合わせで行ったので多かったが、今回は町内のPTAに周知するだけであったので少なかった。
荒井主幹	今回スマートフォンとインターネットであったので親子で参加を期待していたが親だけの参加となっていた。その講師の千葉先生が今度北中学校に来ることになった。色んな引き出しを持っている方なので今後も青少年育成指導員の研修にも繋げられるのかと思う。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
伊藤委員	女性学級ですが、うちの自治会は80歳以上の方がほとんどで若い方は働いていて、年寄りを送っていかないとなかなか参加出来ないし、活動が厳しい。
野村主査	女性学級という名前であるが、女性ばかりでなく活動は柔軟に主体的にやってもらっているが、高齢者が多くなっているのも現状。 女性部を置かない自治会もあり、女性学級の取組も今後の課題となっている。 女性学級の事業はバスで研修に行ったり、地域の中でお茶会しながら講師を呼んだりとか、そうした活動の案については社会教育で案内し謝金も支払いが可能である。
伊藤委員	どんなことをやっているのかわからないこともあるが、自治会で新たなことをやっていくのも難しい。こんなことができるということをアドバイスしてほしい。
荒井主幹	女性学級というネーミングもどうなのか。もう少し柔らかくした方がよいかと思う。
浅野主査	社会教育も良い事業をやっているが、その事業のターゲットにうまく伝わってなかったり、女性学級においても自治会単位の枠ではなく、時代の流れとともにどんなニーズがあるのか情報をマナビティセンターが中心になって発信していく事が大事。若い女性がターゲットであれば、民生の事業の際にチラシを配るとか関係部局の連携が図れると情報がちゃんと伝わるのでは。白書の中では、情報が伝わっていないとか公共施設にカフェがほしいという意見もあり、そうした地域の方が集まれる場所や発信をどう計画の中に盛り込んでいくかも検討していく必要があるかと思う。 情報のシステム化で空き状況の情報だけでなく、そこで何をやっているかの内容をしっかり発信し、ターゲットに伝わるようペーパーであったり、ロコミであったり、情報提供の工夫や方法についても計画に触れていっても良いのではないか。
牛島委員	びほーるなどでの演目を情報として出していくことは、使う団体に確認しなければ、デリケートな問題もあり著作権の関係など難しい場合もある。
荒井主幹	リアルタイムで情報を発信していくのはホームページはあるが、なかなか難しい。サークルの紹介などは定期的に曜日が割り振られており、そうした情報は提供できる。
小田島委員	社会教育では、何をまとめていくのか見えてこない。社会教育事業の参加者をもっと増やそうということなのか。
高木部長	生涯学習として、いつでもどこでも誰でもが学べる機会を提供していくのが大事なところだと思う。
伊藤委員	社会教育委員をやったことがあるが、何が良いとか悪いとか内容が分かっていないと発言しづらい。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
荒井主幹	今、社会教育をやっている足りないと感じるのは、壮年の取組がない。青年はB-liveが取り組んでいて、高齢者は明和大学などで取り組んでいるが、その間の30～50代が中心になって取り組んでいけないものがない。女性部がなくなっているだけでなく、子供会もなくなってきている。
伊藤委員	同じ悩みを抱える方が集まって話し合える場があると解決できる意見も出てくると思う。そういうきっかけ作りが大事ではないか。
小田島委員	子育てしているお母さん方がこんなことしたいと思ってもどこに言ったらいいのか分からない。
浅野主査	社会教育・生涯学習で人を育てること。子どもから高齢者まで学習の範囲が広いが、そこは「まち育講座」とかを活用しながら学習できる。そしてサークルなどの活動がそこだけで終わるのではなく地域貢献、社会貢献できるような働きかけを社会教育としての取組として計画にも盛り込んではどうかと思う。
高木部長	様々な機会を作っているが、社会教育から図書館、博物館、スポーツセンターまで色々な取組の中で、事業が重なる場合もあるので整理する必要もあるかと思うが、その周りに関わる人も含め、協力している人がいるというのはありがたいこと。 事業が重なるところは交通整理をすることが必要かと思う。
伊藤委員	美幌の社会教育はすごく評価が高い。事業も色々なことを結構やっている。
荒井主幹	人口減少に社会教育がどう関わっていけるか。いきいきした大人がいれば子どもも育つ。
伊藤委員	地域の核となる学校がなくなって地域が崩壊してきている。
浅野主査	そうした地域格差だとか、地域の課題を社会教育に投げかけ、こちらから出向いて学習するとか、バスでしゃきつとに来て研修するとか、やり方は色々あると思うので取り組みについて、具体的に検討していくことはできるかと思う。 生涯学習推進体制の整備というところで、横断的な組織が課題ということであるが、構想や考え方があるのか。
荒井主幹	子育てであれば児童支援・福祉だとか商工観光だとか連携が必要であるというところである。
野村主査	具体的に横断的な検討というのは実際には至っていない。
小田島委員	生涯学習に絡んでいる団体でホームページを作るとか。博物館やスポーツセンターでこんなことやっているというのが、そこで分かるように、今はそれぞれ検索して見れるのではなく、生涯学習のページが一つあればわかりやすくいい。誰がアップするのかは問題か。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
浅野主査	ホームページの更新はそれぞれ担当で行えるので可能である。計画に横断的な組織体制の検討を入れるとしても具体的な構想がないとまた10年経って同じような項目でそのまま行ってしまうのではないかと思うので、具体的なことがあれば計画に入れていった方がよいのでは。
牛島委員	縦割りをなくし横の連携に繋げていけるようにしていけばよいのでは。
野村主査	総合計画を作った当初は、連携体制の構想をつくろうという動きがあった。
荒井主幹	今も連携していないわけではない。
高木部長	構想のとらえ方が大きすぎて分かりづらい
牛島委員	各部署が事業を打ち出すだけで事業の調整だとか、連携とかをどこかで一緒に調整するか。合同会議などで横のつながりを作る必要があるのでは
野村主査	生涯学習は、社会教育だけでなく、学校教育、消費者教育、家庭教育があり、社会教育は一つの側面であり、そこを連携していく必要があるから連携体制という話が出たのではないか。
牛島委員	そういう意味では社会教育が音頭をとって、積極的に調整して横のつながりを作っていったらよいのではないか。
小田島委員	総合計画は文字だらけで見づらい。
浅野主査	生涯学習推進体制という部分では町長部局にあって良いのかと思うが社会教育が住民と一番近いところで生涯学習が社会教育にいったのではないか。政策会議や部局長会議などが月1回あるのでそうしたところで行事や連携調整が図られ横のつながりができればよいと思う。
牛島委員	まちづくりの推進をいう意味で、もっと繋がっていかなければいけないし、ここだけの話しではなく、もっと上の方で調整するところ生涯学習推進室などがあればいいのでは。
伊藤委員	計画が漠然としすぎてわかりづらい。事業計画を基に話した方が分かりやすいのでは。
浅野主査	計画は細かい事業ではなく、その大元の計画という押さえで、整理していく
荒井主幹	それを踏まえて、ここに足りないものだとか、社会教育だけでなく他の部局も含め、トータル的にシステムティック的に取り組めたらよいのではないかと思う。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牧野委員	もっと強力的な権限だとか生涯学習を社会教育に移したのであれば、横の繋がりも中心になって強力的に調整を図っていったらいいのでは。そうした体制をつくって捌いていったらよいのではないか。
高木部長	生涯学習推進体制の充実というところでは、博物館・図書館・スポーツ振興という分野もあり、社会教育として職員体制や専門職の配置も他のまちと比べても充実している。そこで事業も取り組まれている。進捗状況でも個別に取り組まれている中で、部局外との連携というところもあるが教育委員会内部でまとまる力を持っているので、内部の体制強化が先ではないか。
浅野主査	広い意味での生涯学習の体制というよりは、教育委員会内部の専門職員の配置もしっかりしていて、それを継続していくことでよいか。他の町では一般職が配置されているところもあるが、美幌は資格を持った専門職が長く配置されている。
高木部長	そうした人の確保というところの体制を評価して次何が問題あるかを整理していくことが大事では。
牛島委員	スポーツや博物館・図書館は専門として特化していてハッキリしているが、社会教育は幅が広くて難しく整理が着かない様な気がする。
高木部長	広い分野で町民のニーズが時代時代で変わってくるし、そこを見越した取り組みが大きな課題では。
浅野主査	推進体制の整備は、びほ一るでも専門のスタッフが必要という記載もあり、博物館も箱があっても学芸員がいなければ人が来ない。そういう意味では専門職の配置という押さえでよいか。
牛島委員	社会教育主事の配置で今の事業とかが捌けているのか。
小田島委員	今の人の配置で事業はできているが、後は啓発が課題ではないか。
野村主査	高齢者を例にとると明和大学での取り組みをしているが、そこに出てこない人をどう繋がっていくかは民生の高齢者福祉とかが関わってないと分からないところがあるので、そこを社会教育とどう連携をとっていきるかだと思う。
荒井主幹	社会教育グループとなっているが、生涯学習は全てが関わって総合的にかみ合わないとは推進できない。ここでは他部局となっているが教育委員会がまずはタグを組んで中心となって関わりを持っていくことが必要。
浅野主査	まち育講座も政策担当でやっているが、各部署と講座の調整をしているだけで、専門職が調整していければ良いのかもしれないが、住民と関わりをもっている中では社会教育でやっていっても良いのでは。個々を繋げたり、グループに働きかけたりするのは、やはり社会教育がノウハウもありやりやすいと思う。ただ、専門職だけではできるものではなく、そこに地域のリーダーであったり、高齢者であったり、そこを繋ぐのも社会教育

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牛島委員	<p>の役割であり人材の活用に繋がると思う。</p> <p>今の社会教育の体制で捌けているのか。町民会館の専門職を含め足りないのであれば、社会教育主事や一般職を増やすとか計画を入れていった方が良いのでは。</p>
野村主査	<p>本来の社会教育主事の役割としては、連携やコーディネーターというのが役割だと思うが現状としては事業の実施がウエイトを占めていて、人がいっぱいいれば超したことはないが、実際のところはそういう状況にある。</p>
牛島委員	<p>人材が足りなくて講座とか手が回らないのであれば、そうしたことも計画に盛り込んでいったらよいのかと思うが、しっかり検証していく必要があるのでは。</p>
伊藤委員	<p>検討検討ばかりではなく、会議やっても意味がない。実際に結果を出してかなければ話しても意味がない。</p>
浅野主査	<p>事業は、やっているのですが計画にある推進体制の整備と少し分かりづらい部分を専門職の充実という意味で社教主事、体育主事、学芸員、図書館司書なりの専門職をちゃんと継続して配置して事業をすすめるということを明記していったらよいのかと思う。</p> <p>そうしたことは明記していった方がよい。</p>
牛島委員 浅野主査	<p>町民会館の改築もありますが、社会教育としての動きは考え方があるのか。</p> <p>まだということであるが、今後の計画に若干関わってくるかと思うが教育委員会で少し整理してもらおうこととしたい。</p> <p>地域活動や参加奨励について、高齢化・固定化という課題もあるが活動を展開する中で取り組んで行く。</p>
荒井主幹	<p>町民会館のホール機能は、人員の増員はされているので落として良い。生涯学習活動の促進のところで、住民主体の活動拡充とあり、コミュニティスクールというのが中心になっているが、もう少し考えられるものがあるのかと思う。</p>
浅野主査	<p>前に学校評議委員のことも触れられていたが、意見を評価するだけかもしれないがコミスクは地域の実践部隊として関わりが持てますし、書き加えられるものがあれば入れていっても良いのでは。</p> <p>B-liveなど、関わりの持てる団体も含めて、どのように関わっていくか入れていってもよいかと思う。</p>
伊藤委員	<p>役場の退職した人がもう少し地域で活動してくれないと、せっかく担当部署で皆さんにお願いしますってやっていたのが、退職したら全く活動していない。町民としては分かっている人がやらないとやる人がいない。そういう方が退職したら協力する体制をとってほしい。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
浅野主査	自治会活動も皆さん積極的に協力してくれていると思うが固定化している課題もある。楽しみながら引き込んで人を増やしていく。そこに社会教育が女性学級などの取り組みで関わっていくこともできる。
伊藤委員	楽しいと思うことがないと、なかなか人が集まってこない。
浅野主査	楽しいもそうだが目的があってやったときの達成感がないと続かない。
荒井主幹	地域にお祭りとかお盆があるとそこだけに帰ってくるとか。沖縄の糸満市の方の話で青年部がエイサーをやるのに組織して繋がっているなど伝統が積み重なっていくと歴史が繋がっていく。それが楽しいってみんなが力を合わせていくのだと思う。
伊藤委員	このままだとイベントのないまちになってしまう。みんなが一体化して取り組めるイベントがあれば、よいのだけれど
荒井主幹	置戸も人間馬ばんばなんかもみんながどうしようかという話からできてきた。 吹奏楽の盛り上がりや冬のスポーツでの盛り上がりがあるが、繋がっていくことが必要
浅野主査	本州の2000人の村では過疎化が深刻で、自然しかないところであるが、最近流行のトレイルランというイベントを始め、たくさんの人があるようになり、まち挙げておもてなしをしている。そこに高齢者のボランティアで関わって盛り上げてくれる。高齢者も大事な人材であるがどう関わって良いか分からないというところもある。そこを繋げるために社会教育が声を掛けてお手伝いしてもらおうとかやりがいを持ってもらう、そうした個々を繋ぐことで色々取り組みができるのかと思う。
小田島委員	イベントやるときにスタッフ募集とか呼びかけると良い。声がかからないから行かないということもある。
石澤委員	いつも関わっているスタッフが同じ顔というところがある。
浅野主査	関係団体で宛て職で出るという場合が多い。
荒井主幹	スタッフを募集したりもするが、ほとんど集まらないので結局同じ人に声を掛ける。
牛島委員	直接声かけしたり、口コミでもしないと集まらない。
石澤委員	うちの団体（青年会議所）も会員減少というのが課題で、最近B-liveの方と話しをして良いと思うが、B-liveに木村君がいなくても木村君自身は何かと動くと思うが、その下の人が木村君ように他に出てくるかというところでもない。そこに教育が必要かと思う。
牛島委員	人が繋がっていく、伝承を受け継ぐといったことが人を育てるということに繋がりが大切なことだと思う。

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
荒井主幹	子ども達に昔遊びをするという事で、明和大学の高齢者が関わる話しを学校にしてみようと考えている。
浅野主査	高齢者の方も子どもが好きな方もいるし時間もあるので、子育て支援センターに来てもらって託児の面倒を見てもらうなど声を掛けると協力してもらえる。
牛島委員	声を掛ける必要がある。
荒井主幹	若いことからそういうことに関わっていないと声を掛けられても、なかなか協力してもらえないかも、若いときにそういう方にお世話になったからという経験があれば、繋がっていくきっかけになるのだと思う。
斉藤主幹	<p>町民会館の改築について、追加の項目として記載のとおり説明 車イスで2階を利用するかトイレの使用についても、びほーるに回らなければいけないとか課題が多い。</p> <p>①耐震化 ②びほーるとの連動 ③貸し館としての利用率の向上のための施策</p> <p>計画中であり、おおまかな構想でしかないので、皆さんの意見を盛り込んでいきたい。 教育委員会管轄であるが、ベースは貸し館というおさえていく。</p>
牛島委員	<p>新しくなると状況が変わってくるので、どのように予約を入れるのか考えていってほしいと思うが、びほーるは1年前から予約が始まって1年前に埋まってしまう。予定がぶつかるとくじ引きになる。貸し館ということだがもう少し予定が見えるような貸し方を検討するといいかと思う。いずれにしても避難所であり、人が集まる集会所であり、びほーるの機能が補完できる施設になるよう検討していただきたい。</p>
牧野委員	今のレストランはどうなるのか
斉藤主幹	経営がきつい。びほーるは飲食禁止で、レストランまで行って利用することは少ない。新館については、町としては固定のレストランまでは考えていない。貸し館でも夜に利用の無い時もあり、レストランのために開けておくことも難しい。
荒井主幹	要望としては町中カフェというものもあるが、そんなものができればいいなと思う。
小田島委員	今の時代1社が張り付くというのも問題があるのでは
高木部長	<p>現実はお皿を何百枚揃えておかなければならないとか専属で入っても経営が成り立たない。カフェ的なもので軽食を用意するか、主催者が用意するか宴会機能が必要かと思うし、受けた業者が持ち込んでやるといったことは考えた方が良くと思う。</p>

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
牧野委員	グランドホテルが今そうしたことをやっているが、それができなくなったときに町民会館でしかできなくなるのかと思うが、そうなったときにどうするかでは遅いので今からバンケット機能を考えないとならないのでは。
伊藤委員	公共施設でたばこが外でしか吸えない。分煙するとか、たばこ吸えるところも考えないと吸う人にはづらい。
斉藤主幹	ホール機能を想定して講演会や結婚式ができることも考えている。全て業者が持ち込んでのバンケット機能は残していく。
荒井主幹	レストラン的な物が無いところでは、商工会が注文を受けて、業者に振ってやっているところもある。
斉藤主幹	どこの業者でも入れるようにしたいと思うが、いきなりそこで300人料理を用意するとなると難しいので、設備だけは揃えなければならないと思う。
牛島委員	避難所としての配膳室も必要である。
斉藤主幹	北一丁目の集会室という機能もあるので厨房も必要
高木部長	場合によっては自家発電も必要
浅野主査	具体的なことは今後、町民会館の改築のところ、ある程度意見をもらいながら具体的な計画になってくるのかと思う。
伊藤委員	できてきたときには、すでにコンクリートされていて意見が言えない状態になっている。聴いたときにはそれはできないということがある。
小田島委員	新たな人材の発掘とイベントをどう普及啓蒙するか。マナビティセンターは何をしているかを町民に知らせてもらえればよい。
牧野委員	ケーブルテレビでもできれば家でそれを見て学べるとか
小田島委員	学校で講師を呼ぶとかいう場合に、お金の交渉もこちらとするのか。直接お金のことは交渉しづらい。
野村主査	人材リストの紹介では、つなぎ役でお金の交渉はその団体が行っているが、実際は社会教育が取り次いでいる。ざっくりばらんに相談してもらえればよいかと思う。
沖崎委員	時代のニーズにあったものを把握して情報のPRに工夫が求められる。
浅野主査	次回、また整理して、再度ご意見をもらいたい。
荒井主幹	芸術・文化について、資料を配布し説明